

要 望 書

【平成28年度第1回定例会】

千葉県町村会

保健福祉行政の充実強化について

1 子ども医療費県補助金の拡充について

こども医療費助成制度については、子育て世帯の経済的負担を軽減するため、こどもが病気やケガなどにより医療機関を受診した場合の医療費の一部負担金を、県と市町村で助成する制度となっている。県は現在、入院医療費の助成対象については中学3年生まで拡大したが、通院医療費の助成対象については依然として小学3年生までとしている。

については、子育て世帯への支援充実の観点から、中学3年生までの通院医療費の拡充を要望する。

環境生活行政の充実強化について

1 生活排水対策浄化槽推進事業の補助堅持について

環境問題は、多くの住民の関心事で、水質浄化もその中の課題のひとつとなっている。

県内でも公共・流域下水道や農業集落排水整備事業といった水質浄化事業に多くの自治体に取り組んでいるが、県内全域を下水道事業等でカバーできる訳ではなく、汚水適正処理構想の見直しにより町全域が浄化槽整備地域になるなど、地域によっては水質浄化に関して今後も浄化槽処理に依存せざるを得ない状況にある。

については、今後も合併処理浄化槽の設置事業が円滑に行われ、県内全域の水質浄化がより推進されるよう、生活排水対策浄化槽推進事業補助を積極的に推進、堅持するよう要望する。

商工労働行政の充実強化について

1 認可採石場における倒産その他による放置の是正について

岩石採取事業を実施している認可採石場の内、倒産などの理由により認可切れのまま未廃止で放置されている採石場が存在しており、不法投棄や崩落が危惧されている。自社所有地の場合もあるが、借地もあり地権者は困惑している。

県は岩石採取認可の際に「誓約書」及び「保証書」を添付させているが、実際には何の効力も発揮していない。

については、認可権者の責任として放置させない、放置された場合における是正の対策について対応策を講ずるよう要望する。

農林水産行政の充実強化について

1 農業産出額全国第2位の奪還について

千葉県は、「農業産出額全国第2位の奪還」を目標に掲げ、「農林水産王国・千葉の復活」と「農山漁村の活性化」の実現を目指している。

しかし、全国第2位の座から陥落して8年、一昨年は4位まで後退した。農業者はTPP大筋合意で不安要素も増している中、政府は対策に農政新時代を掲げ新しい農政の展開を進めている。

については、県も生産基盤整備の更なる推進指導体制の拡充で千葉県農政の総力を挙げて「農業産出額全国第2位の奪還」を目指すよう要望する。

2 イノシシ・シカ・サル等の有害獣被害防止対策及びヤマビル対策への支援について

有害獣による農作物への被害が深刻化しており、生息域も年々拡大している。これは全国共通の課題であり、イノシシ、サル等の被害は水稲をはじめ、農林産物全般に及んでいる。このような状況が続けば、生産者の生産意欲は益々低下し、農地や林地の荒廃が一層進み、さらに深刻な状況となることが危惧される。

現在、有害獣対策はそれぞれの市町村で実施し、多額の経費と労力を投じているが、被害は拡大の一途をたどっている。

また、ヤマビルも生息域を広げており、吸血被害等による生産活動への意欲喪失に加え、観光イメージのマイナス要因となっている。

については、次の事項を要望する。

- (1) 県主導による一斉捕獲の実施
- (2) GPS等による生体把握
- (3) 防護柵設置のための補助金増額及び施工条件の大幅な緩和
- (4) ヤマビル駆除に対する支援

県土整備行政の充実強化について

(道路)

1 歩道設置等について

歩行者の交通安全を確保するため、次の事項について適切な措置を講ずるよう要望する。

- (1) 酒々井町上本佐倉から上岩橋地先方面に向かう一般県道宗吾酒々井線（旧国道51号）は、沿道にある酒々井小学校の通学路になっているが、交通量が多いにもかかわらず歩道が無く、狭い路肩を児童が通学している状況であり、「危険な通学路」となっている。

昨今、通学路中の痛ましい事故が多発していることから、これらの状況を改善するため歩道の整備を促進すること。

- (2) 酒々井町墨地先の主要地方道富里酒々井線は、平成25年に開設した酒々井ICや酒々井プレミアムアウトレットの影響により交通量が増加していることから、地域住民の安全を図るため歩道未整備区間となっている八街市側から東関東自動車道を跨ぐ古沢橋まで約700メートル区間の歩道の整備を促進すること。
- (3) 国道296号の墨入口交差点は、平成25年に開設した酒々井ICや酒々井プレミアムアウトレットへのアクセスとなる交差点であるが、交通量が増加していることから、東酒々井地区からの利用に支障をきたしている。そのため、国道の右折レーンの改良のほか、接続する主要地方道富里酒々井線の右折レーンの設置を含めた交差点改良を促進すること。

2 国道及び県道並びに安食交差点周辺における歩行者等の交通安全対策の確保について

国道356号と県道成田安食線の結節点となる安食交差点は、常に渋滞が生じており印西・成田など、どの方向へ行くにも通行に支障をきたし、地域の活性化を進める上で大きな課題となっている。

さらに、交差点付近は歩道がなく、歩行者や自転車利用者にとって通行が大変危険な状況にある。

については、地域の活性化のため、渋滞解消と歩行者の安全確保が図られるよう、安食交差点の改良について、次の事項について県の道路整備事業計画に位置付け早期事業化するよう要望する。

- (1) 右折レーンの設置（渋滞の解消）
- (2) 歩道等の設置（歩行者等の安全確保）

3 地域活性化のための（仮称）神崎パーキングエリアの設置について

圏央道神崎ICは、都心から1時間、千葉県北の玄関口として、北関東及び東北方面からの利用者が多く北総地域の拠点となっている。

地域活性化を図るため、圏央道のパーキングエリアに併設する道の駅を核とする、ハイウェイオアシスを神崎町では計画している。道の駅「発酵の里こうざき」が、平成27年4月にオープンしたことから、圏央道（仮称）神崎パーキングエリアの設置について、関係機関等へ適切に働きかけるよう要望する。

4 一般県道日吉誉田停車場線の道路整備について

一般県道日吉誉田停車場線は、3本の主要地方道（五井本納線・千葉茂原線・市原茂原線）を結ぶ主要な路線であり、近年特に観光目的の車両や物流関連の大型車両の交通量が著しく増加している。

しかし、未だに一車線の狭隘区間があり、すれ違いに苦慮する箇所もいくつかあり、特に地域の学童は極めて危険な状態での通学を強いられている状況である。

加えて、新たな圏央道スマートIC（以下「SIC」という。）、（仮称）茂原長柄SIC事業を、平成32年4月の供用開始に向けて推進しており、近接する本路線の重要度は益々増加する一方、脆弱な路線への不安も一層増している。

については、本路線とSICが一体的に機能するため全路線の改築事業化を要望する。

5 地域高規格道路茂原一宮道路（長生グリーンライン）の早期完成について

地域高規格道路茂原一宮道路（長生グリーンライン）は、長南町から茂原市間の約7.2kmが整備区間となり整備を進め、圏央道の開通に合わせ国道409号線と圏央道茂原長南インター間が供用開始となった。

しかし、残りの区間は事業の進捗が遅れており、茂原・一宮間の約4kmは未だ調査区間であり、事業に着手していない状況である。外房地域の活性化を図るためには、本道路の果たす役割は大変重要であり、圏央道と一体となって双方の機能が最大限発揮されると考える。

については、茂原・一宮間を整備区間に格上げし、全約11.2kmの整備促進を図るよう要望する。

6 県道南総一宮線水沼地先の改良促進について

県道南総一宮線の長南町水沼地先は狭隘で、一部の区間、大型車は待避所による交互通行となっている。また、県道と沿道隣接地との高低差が大きいため、見通しが悪く、通行上極めて危険な状況となっている。

この道路は、圏央道の市原鶴舞 I C と茂原長南 I C を結ぶ一般道路として、圏央道の整備効果を地域に波及させる重要な役割を担う道路となる。

については、市原側は既に整備が完了し、長南側は一部工事を着手しているため、南郷トンネルを含む道路改良の早期整備を要望する。

7 県道勝浦布施大原線に係る県単道路改良事業（一般リゾート）の早期完成について

県道勝浦布施大原線は、国道 128 号に次ぐ主要道路ともいえる路線であり、いすみ市まで延びている広域農道と御宿町、勝浦市を結ぶ広域性が非常に高い路線である。

平成元年に着手され、近隣市町はもとより夏季の渋滞緩和対策としても有益な事業であることから、関係機関から早期実現を望まれ、一部進捗は図られている。

また、圏央道の一部開通に伴い、外房地域へのアクセスとともに、外房地域から都心へのアクセスに市原鶴舞 IC や茂原長南 IC の利用者も増加していることから、本事業の早期完成は広域的な道路整備計画の目的達成のみならず、外房地域における活性創出という点においても大きく期待されている。

については、一日も早い完成を要望するとともに、事業の進捗状況や展望について地元への説明周知を要望する。

(河川・海岸)

8 九十九里浜の海岸侵食対策事業について

近年、九十九里浜一帯では、海岸侵食により汀線が後退し、砂浜の砂は削り取られ無残な浜崖へと変貌し、かつて一面に広がっていた水平線と砂浜の織り成す白砂青松の景観は、急激に失われている。

侵食が顕著な箇所では県による対策が講じられてきたが、その対策を上回る速度で海岸侵食が進んでいるのが現状である。一部海岸では、海水浴場の開設ができないなど地域経済にも多大な影響を及ぼしている。

また、近年懸念されている高潮や津波をはじめとした自然災害に対する防災対策の観点からも、海岸の侵食対策や養浜対策が早急に必要な状態となっている。

については、九十九里浜の海岸侵食対策並びに養浜事業の更なる促進を図ることを要望する。